

心不全に注意!

「心不全」とは、心臓の働きが十分でないために、全身に必要な血液を送り出すことができない状態です。むくみや息苦しさが主な症状です。夜寝ていて息苦しくなって座った方が楽になる、これが心不全の症状のことがあります。心筋梗塞や弁膜症などで、心臓の機能が低下している場合、無理をしたり塩分をとりすぎると心不全を発症します。症状がある場合は早く受診してください。心不全になると体に水分が貯留しますので体重が増加します。毎日体重を測定して、急激に体重が増加した場合も早めに受診して治療を見直しましょう。



検査の話 その5【心エコー検査】

今回は心エコー検査の話です。

心エコー検査は心臓超音波検査とも呼ばれるように音を用いて検査します。人間が聞くことができる音(周波数20～2万Hz(ヘルツ))を超えた音(200万～2000万Hz)を使って心臓を調べます。音による検査なので痛みはなく、レントゲン検査と違って被爆などの害也没有ありません。妊婦の方や乳幼児でも何度も繰り返して検査できます。心エコー検査を行うと心臓の形や動きが分かります。心臓の大きさや形、筋肉の動き、弁の状態などを調べます。心臓の働きをみる基本となる検査です。



検査はベッドに横になって行います。超音波を発生する装置を胸に当てますが隙間ができないように、装置と胸の間にゼリーを塗ります。ゼリーに害はありませんのでご安心ください。

また心電図も見するため手足に電極をつけます。

通常、検査は20～30分で終了しますが、詳しく調べるために、もう少し時間を掛ける時もあります。

詳しく調べる際に胸を強めに押すこともありますが、痛ければ遠慮なくおっしゃってください。

病気の話 心房細動 その4【血栓の予防】

心房細動は脈がバラバラになって、脈が早くなってドキドキする病気です。

治療には心房細動を正常な脈にしたり、発生自体を予防する方法(調律コントロール)、脈をおそくしてドキドキを緩和させる方法(心拍コントロール)があります。

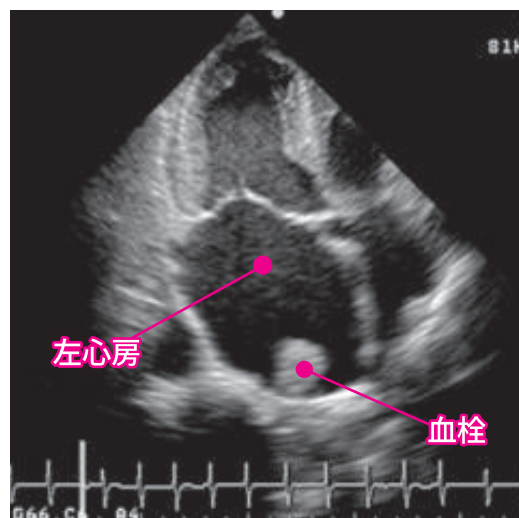
調律コントロールは、不整脈の薬を内服するのですが薬との相性があり100%の効果ではありません。薬による副作用もありますので、とくに薬の代謝が不安定な高齢者や肝臓・腎臓に障害をもつ方ではよくない場合もあります。調律コントロールは心拍数をへらすお薬の内服です。

以前は心房細動を起こらないようにする調律コントロールがいいだろうと考えられていましたが、

両者には治療効果の差がないことが示され、とくに高齢者では心拍コントロールが選択されることが多くなりました。忘れてはならないのは、いずれの治療法でも脳梗塞の予防は必須であることです。調律コントロールに関しては、カテーテルアブレーションという方法で心房細動自体を根治できるようになりました。

心臓内に心房細動を起こす場所がありますので、そこに電流を流してとめてしまう方法です。心臓の老化現象ゆえ再発もありますが理論的には心房細動を完全になおしてしまう治療法です。

さまざまな治療法や治療薬がありますので、利点と欠点を主治医の先生とよく相談して自分にあった方法を選ぶことが大切です。



お知らせ

インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行が続いています。手洗い、うがいなどの対策が大切です。また、発熱・嘔吐・下痢などの症状がある方は受付に申し出ていただくようお願い致します。

お問い合わせ 電話 088-631-0110 住所 〒770-0011 徳島県徳島市北佐古一番町1-39